

私の職業奉仕物語

私は、日々、建物の給排水、空調、衛生といった生活や仕事を支えるインフラ設備に関わる仕事をしています。一見すると裏方のような仕事ですが、人々の安心・安全・快適な暮らしを支える、社会にとって欠かせない役割を担っていると自負しております。

下水道の陥没事故で一般の方が命を落としたり、消火設備の不具合で周辺が泡まみれになったり、空調ダクトの溶接時に引火し火災を起こしたりなど皆様が耳にしたことがある事故が多数発生しているのが現実です。

基本、作業と仕事（職業）は別物であって、職業奉仕につながる心をもって作業を行うことが仕事（職業）であると考えます。設備業においては、例えばこうした姿勢が職業奉仕につながると考えています。

- ・ 見えない部分ほど丁寧に、誠実に施工すること
- ・ 手抜きをしない、安全第一の現場管理を徹底すること
- ・ お客様の立場に立ち、使いやすさや将来のメンテナンスまで考えて提案すること
- ・ 若い職人や後継者に技術とともに、仕事への責任感・倫理観を伝えていくこと

私たちの仕事は、完成したときには目に見えなくなることも多いですが、その「見えない価値」こそが人々の生活や命を支える基盤となっています。

ですから、仕事の一つ一つに誇りと責任を持ち、正しいことを、正しく行う姿勢が、そのまま職業奉仕の実践になると信じています。

また、地域の高齢化や環境問題、省エネ対策など、設備業が果たすべき役割はこれからますます広がっていきます。私は、ロータリアンとしての視点を持ちながら、「地域社会に信頼される設備業者」を目指し、日々努力してまいります。

職業を通じて人に喜ばれ、社会に貢献できること、それこそが私にとっての職業奉仕であり、ロータリーの一員としての誇りです。